**説教20240421ヨハネ黙示録22：6-21「来てください。」**

 **ものごとの最後という事を、みなさんどのように考え、感じておられるでしょう。**

**この世にあって、最後の時は、しばしば訪れます。今、私たちはこの聖書の最後のページを読み終えました。私たちが今捧げているこの礼拝にも、やがて最後の時が来て終わりが告げられます。私たち一人一人の、この地上での人生にも、いつか最後の時が来て、終わりが告げられます。そして、今、私たちが目の当たりにしている形での天と地も、いつか最後の時が来て、この天と地とは崩れ去って、最後の時を迎えるのです。**

**往々にして、この世の地上に生かされる私たち人間の常識的な思いとしては、私たちは、物事の最後を迎えるにあたって、その次が見えないもんですから、恐ろしくなって、臆病になって、追いつめられて、人によっては、悪いことに走ってしまう人も出てくるのです。**

**ヨハネ黙示録２２章11節**

**不正を行う者には、なお不正を行わせ、汚れた者は、なお汚れるままにしておけ。正しい者には、なお正しいことを行わせ、聖なる者は、なお聖なる者とならせよ。**

**このような成り行きで、人間は罪を犯してしまうものですが、聖書が語る罪と言うのは、ただ悪いことをして警察に捕まると言ったレベルに留まることではありません。この礼拝の冒頭でも罪の赦しの祈りによって祈られましたように、私たち人間は、思いと言葉によっても罪を犯し続けているのです。つまり、悪い思いが心に浮かび、汚い言葉が口から出て来るだけで、その人は既に罪を犯しているのです。ですから、私たちは多かれ少なかれ誰しも罪人であり、その罪を赦してもらうために、毎日、罪の赦しの祈りを、神に向かって祈る必要があるのです。**

**生まれ生まれ生まれ生まれて生の始めにくらく、死に死に死に死んで死の終りにくらし。空海と言う有名なお坊さんはこの様に言ったと伝えられますが、将に、罪人である私たち人間は、生まれつきのありのままの姿に留まっていては、死の終わりに暗いままで、最後を迎えることになるのです。**

**しかし、イエス様を信じる一族、教会では兄弟姉妹とも言いますが、兄弟姉妹たちはイエス様の明るさによって、死の終わりを明るく迎えることができます。**

**16節**

**わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために以上のことをあなたがたに証しした。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である。」**

**それでは、どうすればそのイエス様を信じる兄弟姉妹になる事ができるかと言いますと、それはイエス様を信じて、自分の衣を洗い清める洗礼を教会で受けて、生まれ変わることによって、兄弟姉妹に加えられるのです。**

**今日は特に、歓迎礼拝と名付けて日曜日の礼拝を捧げていますが、この日曜ごとの礼拝は休むことなく、最後まで続けられますので、全ての皆さん、いつでも歓迎していますので、又、来て下さい。**

**さて、ここ別府不老町教会では、この様に今年度の目標聖句が定められました。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい。。。「命の水」と言うのは、神様から頂く永遠の命のことです。永遠の命は、最後の最後に完成します。聖書にあっては、最後と言う時は、全てが暗くなって、なくなってしまう時ではありません。その反対で、全てがイエスキリストの光に照らされて明るみに出されて、最早、変化することがない永遠の姿かたちに定まって生き続けるという時なのです。**

**イエス様は、この地上にあって、絶えず、全ての人に向かって、「来て下さい、来なさい」と言って、自分のところへ来るようにと招いておられます。イエス様は言いました。**

**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。（マタイ11：28）**

**イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」（マタイ19：14）**

**「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」ヨハネ4：14**

**私たちは、イエス様の「来て下さい、来なさい」という声に、素直に答えて、イエス様の言葉を聞きに来る方が幸いであります。**

**では、目標聖句の全体、17節を読んでみましょう。**

**17節**

**“霊”と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい。**

**大雑把に説明しますと、霊と言うのはイエスキリストの霊のことで、花嫁と言うのは、兄弟姉妹のことです。つまり神様であるイエス様と、人間である兄弟姉妹たちは、口をそろえて「来てください。来なさい」と、声掛けしながら、愛し合いながら、この地上を生きているのです。この声掛けが、こだまし合って、この世の中に響き渡っていくのです。日本語ですと敬語とかがありますので、この様に２回言わないといけませんが、英語などですと、それはもっとシンプルに「come」という命令形であります。**

**さて、イエス様も「来て下さい」と言い、私たち人間もそれを聞いて「来て下さい」と言う。又それを聞いた人間も、隣りの人に「来て下さい」と言う。この様に、口伝に、噂が広がるように、イエス様のことは、この地上のあらゆる人々に伝えられていくようにされています。**

**イエス様が語られた言葉は、御言葉とも言いまして、この聖書の中に沢山の御言葉が記されています。その中でもこの「来て下さい」という御言葉は短いですが、イエス様のおっしゃりたい意図が凝縮して込められています。イエス様は、とにかく人々を教会へと招きたいのです。そしてその願いは、明るいイエス様を信じる、兄弟姉妹の願いとも重なっているのです。**

**今日の説教題にもなっています「来て下さい」という御言葉を、兄弟姉妹の一人が心を込めて、筆で書いて、街頭に掲示して下さいました。そしてそれだけではもったいないという事で、私は、今日の通信手段であるラインを用いて、「来て下さい」という御言葉の写真を、友人知人たちにばらまいてお知らせしました。**

**何が何でもイエス様の御言葉が伝わりますようにと言う願いを込めて。**

**聖書は語っています。１０節から**

**「この書物の預言の言葉を、秘密にしておいてはいけない。時が迫っているからである。**

**時が迫っているというのは、この天と地が崩れ去る最後の時が身近に迫っていると、読み取れます。太陽にも寿命があるわけですから、その最後の時は、確実にやって来ます。しかし私たち人間には、それがいつになるのかは知らされていません。それを知るのは神様ただお一人です。私たちは、神の御前に常に目覚めていて、その最後の日がいつ来ても良いように備える生活をして参りましょう。**

**さて、別府不老町教会の2021年度の目標聖句は、ローマの信徒への手紙 10章 10節**

**実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。**

**でした。これは、パウロの口を通して語られた御言葉です。この御言葉によりますと、私たちがイエス様によって救われるには、心で信じるという事に加えて、自分の口で公に言い表すという事が必要であるという事です。**

**確かに、私たちは、御言葉を、自分の口を用いて隣人たちに言い広めるとき、自分の心が希望に満たされ、信仰が強められ、イエス様の愛によって強められます。このことは常に最後の時に備えて準備をしている実践の中で、自分自身の心が感じて満たされることですので、是非皆さんも自分なりにやってみてください。**

**私たちは、死の終わりに臨んでは、この体も朽ち果て、心も記憶を無くしていくことでしょう。そして私たちはその最後の時、「来て下さい」という御言葉を聞き、なおその御言葉を自分の口で言い表すことでしょう。もちろん、最後にはこの口も動かなくなるでしょうが、それでも、自分の奥底から響き渡るような「来て下さい」「来て下さい」という御言葉の連呼の中で、私たちは、この世の死を乗り越えて、天の国へと迎え入れられ、永遠の命へと招かれるのではないでしょうか。**

**「来て下さい」「来て下さい」という御言葉の連呼は、私たちを、キリストにあって、完全に一致させ、一つにします。具体的に言えば、私たちは今、この地上で、それぞれの教会に属しています。それはそれぞれの教会に分かれているという事でもあります。ですが、イエス様の願いは、そのように分かれている私たちが最後には、一致して、一つになるという事です。そこに主の平和が実現され、永遠の命が完成を見るのです。**

**「来て下さい」「来て下さい」という御言葉の連呼は、地上の各教会に留まらず、天上の教会にも、響き渡っていくことでしょう。今はこの地上を去り、私たちの目には見えませんが、イエス様に支えられ、最後の時へと旅を続けておられる召天者の方々は、今は、天上の教会にて集って居られることでしょう。私たちは力強く「来て下さい」「来て下さい」と御言葉を連呼することによって、今は世を去られた召天者の方々ともつながっていくことができるのです。**

**聖書全体は、次の様に締めくくられています。２０節より**

**以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように。**

**主イエスよ、来てください。という御言葉は、私たちが親しく歌っている御言葉です。月に一回は歌っています。それはなにかと言いますと、聖餐式の最後に歌われる讃美歌21の81番の歌詞の中に出て来る、マラナタという御言葉です。このマラナタと言うのが将に「主よ来て下さい」という意味です。**

**マナラタはアラム語で、イエス様がこの地上を歩かれた時に日常的に使っていた言語ですので、イエス様は、この地上で、いつも隣り人達に親しくマナラタ、と声を掛けていたに違いありません。**

**そして、あのパウロも、アラム語でマナラタと呼びかけています。第一コリント書の最後になります。私たちは、世の終わりに際して、もっと気を楽にして、時には、なりふり構わず、「来て下さい」という御言葉を、隣り人達に告げ知らせる必要があることでしょう。私たちは何も恐れることはありません、全ての人の救い主である、主イエスキリストが、「来て下さい」と、いつも親しく私たちに声を掛けて下さっています。私たちは、ただ、その御言葉を、値なしに、そのまま隣り人達に告げ知らせて参りましょう。**

**祈り**

**父なる神よ、この地上に救い主イエスキリストを送って下さり有難うございます。どうか全ての人が、あなたの「来て下さい」という御言葉に目覚め、照らされ、動かされて、あなたに向かって歩んで行くことが出来ますように。**

**最後に望みを置く者は救われます。最後の時、イエスキリストの光で満たされ、主の平和が実現するその時に、私たちがその中に、入っていることが出来ますよう、私たちの信仰、希望、愛を、あなたが日々強めて下さい。**

**コリントの信徒への手紙一/ 14章 32節**

**預言者に働きかける霊は、預言者の意に服するはずです。**

**コリントの信徒への手紙一/ 14章 33節**

**神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。聖なる者たちのすべての教会でそうであるように、**

**ダニエル書/ 08章 26節**

**この夜と朝の幻について／わたしの言うことは真実だ。しかし、お前は見たことを秘密にしておきなさい。まだその日は遠い。」**

**エゼキエル書/ 03章 27節**

**しかし、わたしが語りかけるとき、あなたの口を開く。そこであなたは彼らに言わねばならない。主なる神はこう言われる。聞き入れようとする者は聞き入れよ。拒もうとする者は拒むがよい。彼らは反逆の家だから。」**

**ダニエル書/ 12章 09節**

**彼は答えた。「ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は秘められ、封じられている。**

**10:ダニエル書/ 12章 10節**

**多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る。**

**イザヤ書/ 40章 09節**

**高い山に登れ／良い知らせをシオンに伝える者よ。力を振るって声をあげよ／良い知らせをエルサレムに伝える者よ。声をあげよ、恐れるな／ユダの町々に告げよ。見よ、あなたたちの神**

**10:イザヤ書/ 40章 10節**

**見よ、主なる神。彼は力を帯びて来られ／御腕をもって統治される。見よ、主のかち得られたものは御もとに従い／主の働きの実りは御前を進む。**

**イザヤ書/ 62章 11節**

**見よ、主は地の果てにまで布告される。娘シオンに言え。見よ、あなたの救いが進んで来る。見よ、主のかち得られたものは御もとに従い／主の働きの実りは御前を進む。**

**詩編/ 028編 004節**

**その仕業、悪事に応じて彼らに報いてください。その手のなすところに応じて／彼らに報い、罰してください。**

**エレミヤ書/ 17章 09節**

**人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。**

**10:エレミヤ書/ 17章 10節**

**心を探り、そのはらわたを究めるのは／主なるわたしである。それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる。**

**イザヤ書/ 44章 06節**

**イスラエルの王である主／イスラエルを贖う万軍の主は、こう言われる。わたしは初めであり、終わりである。わたしをおいて神はない。**

**イザヤ書/ 48章 11節**

**わたし自身のために、わたし自身のために／わたしは事を起こす。わたしの栄光が汚されてよいであろうか。わたしはそれをほかの者には与えない。**

**12:イザヤ書/ 48章 12節**

**ヤコブよ、わたしに耳を傾けよ。わたしが呼び出したイスラエル。わたしは神、初めでありまた終わりであるもの。**

**13:イザヤ書/ 48章 13節**

**わたしの手は地の基を据え／わたしの右の手は天を延べた。わたしが彼らに呼びかけると、共に立ち上がる。**

**14:イザヤ書/ 48章 14節**

**皆、集まって聞くがよい。彼らのうちに、これを告げた者があろうか。主の愛される者が、主の御旨をバビロンに行い／主の御腕となる人が、カルデア人に行うことを。**

**15:イザヤ書/ 48章 15節**

**わたしが宣言し、わたしが彼を呼んだ。彼を連れて来て、その道を成し遂げさせる。**

**16:イザヤ書/ 48章 16節**

**わたしのもとに近づいて、聞くがよい。わたしは初めから、ひそかに語ったことはない。事の起こるとき、わたしは常にそこにいる。今、主である神はわたしを遣わし／その霊を与えてくださった。**

**エレミヤ書/ 06章 13節**

**「身分の低い者から高い者に至るまで／皆、利をむさぼり／預言者から祭司に至るまで皆、欺く。**

**14:エレミヤ書/ 06章 14節**

**彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して／平和がないのに、『平和、平和』と言う。**

**ホセア書/ 07章 01節**

**イスラエルをいやそうとしても／かえって、エフライムの不義／サマリアの悪が現れる。実に、彼らは偽りをたくらむ。盗人は家に忍び込み／外では追いはぎの群れが人を襲う。**

**イザヤ書/ 11章 01節**

**エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち**

**2:イザヤ書/ 11章 02節**

**その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。**

**3:イザヤ書/ 11章 03節**

**彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず／耳にするところによって弁護することはない。**

**4:イザヤ書/ 11章 04節**

**弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち／唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。**

**イザヤ書/ 55章 01節**

**渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め／価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。**

**2:イザヤ書/ 55章 02節**

**なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い／飢えを満たさぬもののために労するのか。わたしに聞き従えば／良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。**

**3:イザヤ書/ 55章 03節**

**耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。**

**4:イザヤ書/ 55章 04節**

**見よ／かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし／諸国民の指導者、統治者とした。**

**5:イザヤ書/ 55章 05節**

**今、あなたは知らなかった国に呼びかける。あなたを知らなかった国は／あなたのもとに馳せ参じるであろう。あなたの神である主／あなたに輝きを与えられる／イスラエルの聖なる神のゆえに。**

**6:イザヤ書/ 55章 06節**

**主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。**

**箴言/ 30章 05節**

**神の言われることはすべて清い。身を寄せればそれは盾となる。**

**6:箴言/ 30章 06節**

**御言葉に付け加えようとするな。責められて／偽る者と断罪されることのないように。**

**コリントの信徒への手紙一/ 16章 22節**

**主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい。マラナ・タ（主よ、来てください）。**

**23:コリントの信徒への手紙一/ 16章 23節**

**主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。**

**24:コリントの信徒への手紙一/ 16章 24節**

**わたしの愛が、キリスト・イエスにおいてあなたがた一同と共にあるように。**

**ローマの信徒への手紙/ 16章 20節**

**平和の源である神は間もなく、サタンをあなたがたの足の下で打ち砕かれるでしょう。わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。**

**イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。**

**と聖書には記されていますが、これはどういう事でしょう。イエス様は十字架の死から復活されてから、大忙しであちこちの弟子や信徒のところを回っておられたのでしょうか。イエス様が、多くの人に現れたという事は確かでしょうが、イエス様は、同時に複数のところに現れることができる普遍性をお持ちですから、大忙しで回っておられたというのは当たらないでしょう。**

**この時、弟子たちが、イエス様に３度目に人間の前に現れた、という事は、人間がそのように感知したという事ではないでしょうか。私たち人間の真実は、忘れっぽい、忘れていく存在であるという事です。私たちは個人差はありますけれども、以前に起こったことを次第に忘れていく存在です。**

**それが人間の真実であり、実情であり、ありのままの姿なのです。**

**先週、私は、熊本にある錦ケ丘教会に行き、九州連合長老会の牧師会に参加してきました。そこで、新年度に転任して、九州にやって来られた一人の先生に再会を致しました。私にとりましては間違いなくその先生との再会だったのですが、彼にとっては、私とは初めてお会いするという事でありました。なぜなら悲しいことに、彼は私のことを全く忘れておられたからです。**

**７年前、私は神学校に在籍していまして、夏期伝道実習に遣わされ、ほぼ一ヵ月、高知や徳島の海辺にある小さな教会を１０箇所ほど巡りました。その夏期伝道の一か月間のうちの１日間、私は、その先生と行動を共にしました。小さな岬の突端迄、車を走らせ、海を眺め、帰りは、Ｕターンする空き地が見当たらず、狭い道をずっとバックで運転して帰った記憶があります。**

**先週、私は先生にその時のお礼と、そんな体験しましたよね、としつこく問いかけてみましたけれども、結局、彼の私に関する記憶は思い起こされませんでした。私は７年ぶりに一目見て、あの時の彼だと、分かったのに、相手は、そんな体験は無かったかのようにそこに居られたのでした。**

**皆さんも対人関係で、こういった思いをされたことがおありになられるかも知れません。そんな時、私たちは、悲しみや失望や、時には怒りの感情さえも抱くかもしれません。**

**でも、神様から見れば、私たち人間は、誰しも忘れっぽく、忘れていく存在にほかなりません。**

**私たち人間が、忘れっぽく、忘れていく存在として造られている、と言うのは、人を悲しませる欠点でもありますが、それと同時に、人を喜ばすことも出来る利点でもあります。**

**例えば、私たちは、自分たちの罪を、さっぱりと忘れることができるなら、なんと幸せであり、それだけで永遠に生きたいと思うことでしょうか。**

**しかし、人間は逆に、罪なことは忘れないで、幸せなことは忘れてしまうという愚かさを持っています。**

**対して、神様はどうでしょうか。神様はあなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられておられます（マタイ10：30）。今日取れた魚の数も、数える前から153匹だとわかっておられます。神様は小さな事から大きなことまで全てのことを、決して忘れることなく最後まで記憶し続けるお方であります。何と畏れ多い御方でありましょう。しかし、その神様は、敢えて私たちの罪は忘れようとして下さる、誰よりも憐れみと慈しみに満ちた御方でもあります。（詩編25：7）**

**今日の聖書箇所は、その、と言う言葉で始ます。その後起ったことが、神様の記憶の中に積み重ねられていくという様に読みとれます。**

**弟子たちの内、ペトロやトマスたち漁師出身の弟子たちは、ガリラヤ湖湖畔のティベリウスで漁の仕事に戻っていました。「私は漁に行く」「私たちも一緒に行こう」しかし、その夜は何も取れなかった。この様に記されています。ここに弟子たちの心境や感情は一切記されていませんが、何か、波一つない、波乱がない湖面のような穏やかな弟子たちの心境が想像できます。彼らは、復活の主に出会ったなのに、心騒がすこともなく、この様に元のに戻っていたのでした。**

**それでは、彼らが、全く元の漁師たちに戻ってしまったのかと言いますと、それは全くそうではないのです。彼らは、主イエスにあって生きる人、主イエスの御言葉に従って生きる人、主イエスの記憶に留まって生きる人たちに変えられていたのでした。その彼らに起こった変化を見て参りましょう。**

**未だ、イエス様を知らない漁師たちの姿と、今日のイエス様を知ったの弟子たちとの姿を比較するには、今日の箇所と、ルカ福音書５章１節からの「漁師を弟子にする」の箇所を比較して読むとよいでしょう。このルカ福音書の箇所でも漁師たちは、魚が摂れずにいました。しかしイエス様が「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と彼らに言って彼らがその通りにすると、**

**ルカ福音書5章 6節-8節**

**そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。**

**この様になりました。ヨハネ福音書のこの時も、イエス様の言う通りにすると、今迄にみたこともないような沢山の魚が取れて、弟子たちは驚かされたのでした。**

**この出来事は、主イエスが私たち人間に対して与えられた、奇跡の出来事です。奇跡は、私たちを驚かせ、心を高ぶらせることでしょう。**

**そして、ルカ福音書の漁師を弟子にした箇所と、今日ヨハネ福音書の復活のイエスに出会う箇所との違いは、同じ漁と言う場面で、同じくイエス様から「網を打ちなさい」と言われた彼らが、行ったことの違いにあります。**

**「漁師を弟子にする」の場面では、今迄にみたこともないような沢山の魚が取れたのを見て、ペトロたちは、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言ったのでした。つまり彼らは、この時、主イエスの畏れ多さを知り、ただその御前にひれ伏したのでした。ペトロたちは沢山の魚をみて驚いたというよりは、沢山の魚をもたらすことができる主イエスの力に驚き、その力の前に、ひれ伏したのでした。そしてそんなペトロたちに対して主イエスは、「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」と宣言され、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従ったのでした。**

**それにくらべて、今日のペトロやヨハネ達はどうかと言いますと、彼らは、沢山の魚が摂れたのを見て、主イエスと出会った時のことを想い起して、「主だ」と言い、「主だ」と聞いて、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込み、主イエスの処へと駆け付けたのでした。**

**彼らは、沢山の魚が摂れた以前と同じ場面を見て、主イエスのことを思い出したのでした。そして、彼らはその時、心も体も喜んで、イエスの身元へと駆け付けたのであります。**

**ここに、ルカ福音書に記された、イエス様との初めての出会いの場面との違いが明らかになっています。イエス様と初めて出会った時は、彼らは、恐れによってイエス様に従う者たちとされましたが、約三年間、イエス様に従う生活をしたことによって、彼らは喜んでイエスの身元へと駆け付ける者たちへと変えられていたのでした。**

**何故、弟子たちが喜んでイエスのもとへと駆け付けたのかと言いますと、それは彼らがイエスを愛し、イエスが彼らを愛しておられたからです。そのことは、７節でイエスの愛しておられたあの弟子が先ず初めに、「主だ」と気付いて声を上げたことに現れています。つまり、弟子たちとイエス様は愛によってひかれあっていたという事です。**

**この食事の場面でのイエス様の弟子たちに対する配慮は、実に事細かで至れり尽くせりであります。陸に上あがった弟子たちには、もうすでに炭火がおこしてあり、その上に魚がのせてあり、パンも用意されていました。これらは皆、イエス様が弟子たちの為に用意されたことです。こんな小さな事にもイエス様の愛があらわれています。**

**しかも、イエス様は弟子たちには「網を打ちなさい」と命じられて、出来る仕事をお与えになり、彼らの仕事を導き祝されたのでした。このようにして神と人とが協力をして整えられた食卓を前にして、主イエスは「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と弟子たちに言われたのでした。この成り行きを見てみますと、なんだかイエス様が、キャンプを計画して整えてくれるリーダーの様にも見えてきます。**

**私たちは、イエス様と初めて出会ってから、この様に、おそれ多いイエス様に付き従い、イエス様との愛情を深めていく歩みを、この地上で重ねています。イエス様が、私たち一人ひとりの全てを知っておられる畏れ多い御方であることは最後まで変わりません。しかし、私たちは、その歩みの中で益々、主イエスにあって生きる人、主イエスの御言葉に従って生きる人、主イエスの記憶に留まって生きる人たちに変えられていくのです。そのように私たち自身が変えられていく中で、私たちは、イエス様が朝の食事を整えて下さる愛情深い御方であり、なすべきことをその都度教えてくれる、愛に満ちたリーダーであることを知ることができるでしょう。**

**私たち人間はいつまでたっても、忘れっぽく、忘れていく存在のままです。しかしそんな私たちは、主イエスの記憶に留まって生きる者へと変えられ、主イエスの永遠の命へつながることができます。**

**今迄にみたこともないような沢山の魚が取れたという奇跡の出来事も、私たち人間だけでは、いつしか忘れ去られる出来事に過ぎません。一方で、毎朝、食卓が整えられるという一見、平凡な日常の出来事でも、そこに主イエスが同席されるのならば、それは愛情に満ちた、忘れがたい出来事の積み重ねとなることでしょう。なぜならばその小さな出来事の一つ一つが主イエスの記憶によって永遠に覚えられているのですから。**

**私たちは、今日のガリラヤ湖湖畔での食事の風景を忘れないで、主イエスよ再び来て下さいと呼び求める祈りを、最後まで、共に続けて参りたいと願います。**

**祈り**

**神よ、あなたは御子イエスを復活させ、私たちに何度でも出会えるようにして下さいました。その計り知れない御恵みに感謝し、あなたをほめたたえます。**

**私たちは忘れやすい者でありながら、罪ある事にはこだわり、罪を忘れず、罪から逃れることができません。そのような愚かな私たちをどうかあなたが、その都度、赦して下さい。私たちが、罪から解放され、又、新しい命に生きられますよう、私たちを、日々、つくり変えて下さい。あなたの記憶のうちに全てを覚えていて下さり、良い出来事を豊かに祝し導いて下さい。**

**この世に生きる悲しみ、苦しみを覚えます。全ての喜びはあなたからやって来ます。どうか私たちが、あなたとの交わりである、祈りの時を忘れることなく、常に祈り、あなたと会話し、あなたからの恵みを受け取ることが出来るようにして下さい。争いの代わりに、愛を教えてくださる、あなたの憐れみを益々知り、あなたのもとへといつも走り寄ることが出来るようにして下さい。**

**私たちの心を鎮めてください。弟子たちがガリラヤ湖畔で、心穏やかに、あなたとの再会を待ち望んだように、私たちも御子イエスが来られる時を待ち望む、食事を最後まで続けることが出来ますように。**

**父と聖霊と共に**